

絵本『木をかこう』について

皆さんは、学校では毎朝10分間朝読書をしています。

夏休み中、本を読んでいますか。

心を豊かにしたり、視野を広げたりするのに読書は役立ちます。

自分が見たり感じたり考えたりしたことがない世界に触れることは、自分自身の体験の枠組みを超えさせてくれます。

古典でも小説でもノンフィクションでもマンガでも構いません。進路を考えると、新書を読んでほしいとは思いますが。

さて、夏休みに入ってから、私が読んだ絵本を紹介します。

ブルーノ・ムナリー（1907～1998）というイタリアのアーティストの『木をかこう』です。彼は『スイミー』で有名なレオ・レオニと交流があります。グラフィックデザイナーとして国際的に活躍しましたが、幼い息子のために絵本を描き、晩年には子どものための造形ワークショップ活動に力を入れ、訪日もしています。

なお、翻訳はエッセイやイタリアの作家の翻訳で名高い須賀敦子さんです。

『木をかこう』は、小さな子どもが木の絵を描くための手引き書です。

私が気に入ったのは、枝がどう伸びているかをていねいに説明している点です。

私は枝幸町が好きで、「枝高は 枝を伸ばせば 幸せだ」と言い、名刺にも載せています。

そのため、「枝」を取り上げたものを探してみましたが、これまで見つかりませんでした。

しかし、この絵本では、芽や根、幹、葉、花ではなく、珍しく「枝」が主役で一番出てくる言葉です。

そして、ブルーノ・ムナリーは、枝の伸び方について、規則性はあるものの実に多様であることを繰り返し指摘し、次のように言っています。

「木のかきかたを、みなさんに教えました、
このとおりにかいてください、というのではありません。
規則をのみこんでくだされば、あとは、みなさん、
それぞれ、好きなように、木をかいてください。」

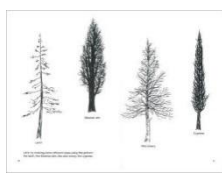
私にとって、枝を伸ばすとは、持っている力、潜んでいる可能性を引き出すこと、成長することです。成長は喜びです。

また、枝を伸ばすとは、外に向かって、他者に向かって、自分の世界を広げることです。広いことは喜びです。

それを視覚的に実感させてくれる『木をかこう』が大好きです。

私もこれからまだまだ木をかきます。

皆さんにも個性的な木をかいてほしいと思います。



『木をかこう』（至光社）
ブルーノ・ムナリ作 須賀敦子訳
※他に転載不可

『木をかこう』は校長室に置いておきますので、いつでも見に来てください。